

2025年2月

「次世代の“ネクサス”と投資」のご案内

地球環境を取り巻く環境問題は複合的な要因が関係するため、様々な相関関係の下、複眼的な解決策を模索する必要があるとされ、「ネクサスアプローチ」を考える必要があります。また、次世代を巻き込んだ長期的な視野でのネクサスの議論が大切であるとされます。

ここで、投資業界、法曹界、そして次世代におけるサステナビリティの専門家を招いて、「次世代のネクサス」と題して、1) 気候変動を取り巻くグローバルの観点での現状把握、2) 日本のPE業界の取り組み、そして、3) 企業が負うリスク、について認識し、解決策について議論を行います。

- 主催：インベストコープ
- 協賛：日本PE協会
- 協力：一般財団法人プロメテウス財団
- スポンサー： インベストコープ ジャパン、エルエルシー（リードスポンサー）
株式会社アドバンテッジパートナーズ、株式会社日本産業推進機構、
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
- **日時：2025年3月14日（金） 10時～15時**
- 会場：東京国際フォーラム ホールB7
<https://www.t-i-forum.co.jp/access/access/>
- 収容人数：300名
- テーマ：次世代の「ネクサス」と投資
- 参加申し込み：お申し込みは、こちらの[リンク](#)をクリックいただく
か、右にあるQRコードからお願いします。



※ Global Money Week 参加企画
グローバル・マネー・ウィーク（Global Money Week）は、OECD「金融教育に関する国際ネットワーク（INFE）」が主催する、こども・若者に対する金融教育・金融包摂の推進のための国際的な啓発活動です。（<https://globalmoneyweek.org/>）

• プログラム (敬称略)

1. **10:00-10:15** 開会挨拶および基調講演 (日本 PE 協会会長 飯沼良介)
2. **10:15-10:30** リードスポンサー挨拶および基調講演 :
 ハビブ・アブドゥル・ラーマン
 マネージング・ディレクター 兼 サステイナビリティ部門
 グローバル責任者、Investcorp
3. **10:30-10:50** **基調講演:** 竹中平蔵、慶応大学名誉教授
4. **10:50-11:50** **パネル 1 : 次世代のためのサステイナビリティ**
 モデレーター 水口剛 (高崎経済大学 学長)
 パネリスト 石川悠生 (東京大学)
 高橋櫻 (Climate Youth Japan、オーストラリア国立大学)
 鳥井要佑 (東京大学、日本 GX 総合研究所代表)
5. **11:50-13:00** **ネットワーキングランチ** (お弁当付き)
6. **13:00-14:00** **パネル 2 : PE 投資のサステイナビリティ**
 モデレーター 棚橋俊介 (インベストコープ パートナー
 兼 日本における代表者)
 パネリスト 岩見誠人 (日本産業推進機構)
 香月由嘉 (ポラリス・キャピタル・グループ)
 新林佑介 (アドバンテッジパートナーズ)
7. **14:00-15:00** **パネル 3 : サステイナビリティ関連法務**
 モデレーター 森澤充世 (PRI 事務局シニア・リード)
 パネリスト 小出薫 (グリーンライツ法律事務所 代表弁護士)
 土岐俊太 (大江橋法律事務所パートナー
 弁護士・ニューヨーク州弁護士)
 橋本裕子 (西村あさひ法律事務所・外国法共同事業
 アソシエイト、弁護士)
8. **15:00-15:10** **閉会の言葉**

登壇者略歴



飯沼良介

日本プライベートエクイティ協会 会長・代表理事

アント・キャピタル・パートナーズ代表取締役

1994年三菱商事入社。技術部、コンピュータ事業部にて海外ソフトウェアベンダーの国内市場開拓および国内事業立ち上げを担当。2001年当社入社。2012年当社取締役就任。2013年当社代表取締役就任。シーエーイー、チェッカーモーターズ（代表取締役）、ゴルフパートナー（取締役）、ミヤノ（現シチズンマシナリー）、ウィルプラスホールディングス（取締役）、パリオセキュア・ネットワークス（現パリオセキュア、取締役）、ジャパンバイクオークション、藤二誠（監査役）、Casa（取締役）、ムーンスター（取締役）、アップルワールド（取締役）、アロスワン（取締役）、ニューオークボ（取締役）、アミクス（取締役）、ソフトブレン（取締役）、メック（監査役）、羅針（代表取締役）、ピーライン（取締役）等において投資実行およびハズオン支援、Exit交渉を担当。主に投資先企業の経営管理体制整備と営業戦略構築面でのサポートを行う。また、バイアウトインベストメントグループのリーダーとして、グループ全体のオペレーションおよび投資活動を統括。慶應義塾大学商学部卒。



ハビブ・アブドゥル・
ラーマン

インベストコープ、マネージング・ディレクター 兼 サステナビリティ部門グローバル責任者

ハビブ・アブドゥル・ラーマン（Habib Abdur-Rahman）は、インベストコープのマネージング・ディレクター兼サステナビリティ部門のグローバル責任者。その職務において、彼はインベストコープのグローバルな気候変動およびサステナビリティへの取り組みを主導し、投資家や投資チームと協力しながら、持続可能な投資慣行の推進に取り組んでいる。

ハビブは、ロンドンおよび中東でさまざまな案件のアドバイザー業務や投資業務を担当した経験を持つ。また、チャールズ国王の持続可能な市場イニシアティブのメンバーであり、世界経済フォーラムの責任投資の未来に関するグローバル・フューチャー・カウンシルの評議員も務めている。

ロイヤル・カレッジ・オブ・サイエンスの準会員であるハビブは、インペリアル・カレッジ・ロンドンで数学を専攻し、オックスフォード大学では東洋学の修士号を取得。



竹中 平蔵

慶應義塾大学名誉教授。博士（経済学）。1951年、和歌山県生まれ。一橋大学経済学部卒業後、73年日本開発銀行入行、81年に退職後、ハーバード大学客員准教授、慶應義塾大学総合政策学部教授などを務める。01年、小泉内閣の経済財政政策担当大臣就任を皮切りに金融担当大臣、郵政民営化担当大臣、総務大臣などを歴任。04年参議院議員に当選。06年9月、参議院議員を辞職し政界を引退。ほか公益社団法人日本経済研究センター研究顧問、SBIホールディングス(株)独立社外取締役、世界経済フォーラム（ダボス会議）理事などを兼職



水口剛

高崎経済大学 学長。筑波大学卒。商社、監査法人等の勤務をへて、1997年高崎経済大学経済学部講師。2008年教授、2017年副学長を経て、2021年より現職。専門は責任投資（ESG投資）、非財務情報開示。環境省「グリーンファイナンスに関する検討会」座長、「ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース」座長、金融庁・GSG国内諮問委員会共催「インパクト投資勉強会」座長、金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」座長、インパクトコンソーシアム会長等を歴任。主な著書に『ESG投資－新しい資本主義のかたち』（日本経済新聞出版）、『責任ある投資－資金の流れで未来を変える』（岩波書店）、『サステナブルファイナンスの時代－ESG/SDGsと債券市場』（編著、きんざい）、『サステナブルファイナンス最前線』（編著、きんざい）など。



森澤 充世

環境・サステナブル投資専門家。シティバンク等で金融機関間決済リスク削減事業に従事した後、環境学の研究を開始する。2005年CDPの世界的な拡大に伴い、日本担当として参加して2023年2月までジャパンディレクターとして、企業の環境やサステナビリティへの取組や情報開示の促進を行っていた。2010年PRIが日本ネットワーク創設にあたり、CDPジャパンディレクターと兼務で、日本責任者ジャパンヘッドとして参加し、2022年よりシニアリード。東京大学大学院 環境学博士



棚橋 俊介

インベストコープのパートナーであり、日本における代表者。業界経験28年。前職は、パートナーズ・グループにて代表取締役社長を含むシニア職を歴任。三菱信託銀行（現三菱UFJ信託銀行）、ゴールドマンサックスAM、アントキャピタルを経て、2010年にアークオルタナティブアドバイザーズ株式会社（アーク東短オルタナティブ株式会社）を創業。責任投資関連では、2005年に責任投資原則（PRI）のエキスパートグループメンバーに日本代表として任命されたあと、2013年4月より、責任投資原則（PRI）協会日本ネットワークPEワーキンググループ議長、2017年よりインフラ・ワーキンググループ副議長も兼務し、ESG活動を積極的に推進。日本プライベートエクイティ協会ESG委員。1996年に東京大学にて経済学の学士号を取得。2007年ミシガン大学にてMBAを取得。



石川 悠生

東京大学 工学系研究科 社会基盤学専攻/生産技術研究所 山崎研究室 博士課程3年

- 2020年3月 東京大学 工学部 社会基盤学科 卒業
 - 卒業論文：全球高解像度での農地ポテンシャルの推定と実農地分布との比較分析
- 2022年6月 清華大学大学院 土木水利学院 水利水電工程系 修士課程 修了
 - 修士論文：Spatially dense estimation of river discharge along the mainstem of the Yellow River using at-many-stations hydraulic geometry scheme
(AMHG式を用いた黄河主流における空間的に連続した河川流量の推定)
- 2022年10月（～現在）東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 博士後期課程
 - 博士論文テーマ：世界の大陸河川における衛星観測情報を反映した水資源評価に関する研究
 - 2023年4月（～現在）日本学術振興会特別研究員 DC1



高橋 櫻

Climate Youth Japan オーストラリア国立大学3年生（気候科学専攻）

青年環境NGO Climate Youth Japan（CYJ）で2022年5月から活動しており、運営やビジネス勉強会統括を務めてきた。CYJの派遣者としてCOP27、COP29に参加し、現地にて登壇。現在は、若者の声を実質的に政治・政策に反映するためのユースカウンシル（若者議会）の設立に取り組んでいる。



鳥井 要佑

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程在学。株式会社日本GX総合研究所代表

大学では、植物の窒素栄養応答に重要な転写制御メカニズムに関する研究に従事。2021年、脱炭素と生物多様性を両立した社会システム推進のために、若者の企業や自治体と連携し活動する一般社団法人SWITCHの設立に携わる。2023年には熱海に位置する放置林の管理・活用事業、小布施町でのバイオマス事業に参画。2024年より日本カーボンプレジット取引所を運営する日本GXグループ株式会社に参画し、2025年より現職。現在は、企業のサステナビリティ情報開示やカーボンプレジット創出・流通事業に加え、GXをオポチュニティと捉えた藻場再生や廃棄物資源化などの新規事業開発などにも携わる。



岩見誠人

NSSKのパートナー兼マネージングディレクター、公認会計士

2016年8月にNSSKに参画して以来、タカギ、ぶんか社、ヴァティー、Welfare すずらん、アイアイター・オリエンタルフーズ、エルソニック、マイティ・マイティなど、数多くの案件に従事し、新規投資および投資後の経営改善・支援に貢献。現在は、投資チームの共同統括責任者として、大半の案件において出資検討に関与し、また、ESG委員会のメンバーとして投資実行時および投資後の投資先のESG活動を積極的に推進。NSSKに参画する以前は、プライスウォーターハウスクーパースに勤務し、監査業務を経て10年以上にわたりM&Aのアドバイザー業務に従事。



香月由嘉

ポラリス・キャピタル・グループ チーフサステナビリティオフィサー、弁護士

2000年、英国3i（当時、3i興銀バイアウト）に参画以降、国内外のプライベートエクイティファンド・FOF・プリンシパルインベストメントにて投資、IR、企画管理、リーガルコンプライアンス業務等の業務に従事。上場会社の監査等委員・社外取締役等を歴任。早稲田大学経済学士・ロンドン大学経営大学院（LBS）MBA・法政大学大学院公共政策研究科サステナビリティ学専攻。弁護士。



新林佑介

**アドバンテッジパートナーズ 再生可能エネルギー・サステナビリティ投資戦略
ヴァイスプレジデント**

2022年7月、アドバンテッジパートナーズに参加。2024年8月に立ち上がったJapan Hydrogen Fundにおいてソーシングから投資実行に携わる。

大学院修了後は住友商事にて電力ビジネスに従事。アジアやアフリカにおける発電所建設プロジェクトの開発および契約履行、並びに中東、アフリカおよび中央アジアにおける再生可能エネルギー等の発電事業への新規投資開発を担当。マレーシアおよびUAEに計5年間海外駐在。京都大学工学部物理工学科および同大学工学研究科機械理工学専攻修士課程修了



小出 薫

グリーンライツ法律事務所 代表弁護士

京都大学農学部森林科学科 卒業。ニューヨーク州立大学大学院公共政策学プログラム 修了（公共政策学修士）。一橋大学法科大学院修了。2013年弁護士登録（66期）。

2015年から2023年まで、新潟県糸魚川市、柏崎市にて法律事務所を運営。2016年12月の糸魚川市駅北大火後、駅北広場キターレの運営に携わる。2023年4月、東京都内にて、環境権をテーマに気候変動対策をミッションとするグリーンライツ法律事務所開設。

2024年8月、名古屋地方裁判所において発電事業者10社に対して提訴した二酸化炭素排出削減請求事件「明日を生きるための若者気候訴訟」弁護団メンバー。



土岐 俊太

大江橋法律事務所パートナー。弁護士・ニューヨーク州弁護士

M&A、サステナビリティ関連法務、再生可能エネルギー関連法務、紛争解決を中心に幅広く企業法務に携わる。2012年京都大学法学部卒業、2014年京都大学法科大学院修了、2022年 Georgetown University Law Center 修了(LL.M.)、2024年 Utrecht University School of Law 修了 (Master of Law and Sustainability in Europe)。2022年～2023年には Morgan, Lewis & Bockius LLP (New York) で勤務し、2024年には Heussen (Amsterdam) で実務研修。近年の主な著作は、「ハーグ高等裁判所のGHG排出量削減に関する判決と日本企業への影響」(環境管理 2025年2月号)、「ゼロからわかる ESG・サステナビリティ法務 Q&A」(2024年2月 一般社団法人金融財政事情研究会、共著)、「気候変動と企業の訴訟リスク」(ジュリスト 2024年1月号)、「The Legal 500 Country Comparative Guides Japan Environmental, Social and Governance」(2023年5月 The Legal 500、共著)、「グリーンウォッシュや『反 ESG の動き』の中で日本企業に求められる対応～M&A 時の法務 DD や子会社管理で重要な ESG 要素の検証」(2023年5月 MARR Online) など。



橋本 裕子

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業アソシエイト、弁護士

2011年早稲田大学法学部卒業、2013年東京大学法科大学院修了、2014年弁護士登録（67期）。

2022年 New York University School of Law 修了(LL.M.)。

再生可能エネルギー関連のプロジェクトファイナンス、M&A ファイナンス、サステナビリティ関連法務を中心に幅広く企業法務に携わる。2022年夏に Columbia Center on Sustainable Investment において Legal Fellow としてサステナビリティ関連のリーガルリサーチに携わり、2022年～2023年には 邦銀のロンドン支店において、欧州・中東・アフリカの再生可能エネルギープロジェクトに携わる。近年の主な論文は、「気候変動への取り組みにおけるコーポレート・ガバナンスの役割：インドの事例」(NBL No.1237 (2023年3月1日号、共著) など。